



コンテンツ一覧

- ◆大田病院長から新年のご挨拶
- ◆松本副院長兼看護部長からの新年のご挨拶
- ◆会津の疫病退治の赤べこ伝説



◆大田病院長から新年のご挨拶



新年を迎えて、といっても今年は新型コロナウイルス感染症と付き合いながらの1年の始まりとなります。年末年始は皆さま感染対策を徹底させながら、ご家族との時間を過ごされたのではないのでしょうか。

昨年9月には新型コロナウイルス感染の院内クラスターが起こり、多くの患者様にご不便とご心配をおかけしました。県の対策本部、会津保健所や県立医科大学附属病院との連携のもと、職員全員で感染拡大防止の取り組みを進め、10月7日に病院機能を再開

することができました。

昨年年末から福島県でも中通りを中心にコロナ感染が急速に広がってきました。1月7日には首都圏で緊急事態宣言が発令され、福島県からも日々の暮らしの感染対策、職場における感染対策、県内外への移動に関して注意喚起がなされています。今年も職員一同、来院される皆さまの安心・安全を第一に考え、緊張感を持って感染防止策の徹底に努めてまいります。

また、この春ごろから始まる新型コロナウイルスに対するワクチン接種について、行政の動きを注視しながら、安全に患者さん、医療スタッフへ接種できるように計画を立ててまいります。

コロナとの付き合いの中、当院の本来の使命である「地域の医療を支える診療・研究・教育の拠点」としての役割を十二分に発揮していかなければなりません。各診療科においては、それぞれ高度な医療の実践を継続し、さらに発展させていきます。昨年12月1日に感染症・呼吸器内科に久米裕昭教授が着任されましたので診療体制の一層の充実が図られます。

また患者サービスの向上に向けてさらに努力してまいります。以前から皆さまに指摘されている外来待ち時間の短縮に向けて、より一層かかりつけ医との連携を進めてまいります。また会津地域の救急医療にどう貢献できるかについて考えてまいります。

地域医療では昨年7月から始まった奥会津での訪問看護、診療支援をさらに進め、皆さまのニーズにあう医療の提供を進めてまいります。

皆さまの忌憚のないご意見を頂戴しながら、より良い診療環境を作り皆さまから信頼される会津医療センターとしてより一層頑張っておりますので、これからもどうかよろしくお願いたします。

◆松本副院長兼看護部長から新年のご挨拶



新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いたします。

新型コロナウイルスが猛威を振るい、生活する上でのいろいろな制限や感染の恐怖・不安などで心が乱される特別な日常が続いております。これだけAIの進化や医療の高度化・進展が著しい現代で「どうして」という疑問や「迅速な解決策はないのか」といういらだちと行き場のない感情に振り回されてるのではないのでしょうか。

一方では、いままでと違う生き方や人間の在り方というものが問われているのではないかと感じています。

昨年は、当院内でもクラスター(感染集団)が発生し、診療も一時停止しなくてはならない状況となり、皆様方には、大変なご迷惑とご心配をおかけしましたこと深くお詫び申し上げます。患者様・ご家族、そして職員それぞれの胸の内を思うと今でも心が痛みます。

とても大変な状況となり辛い経験でしたが、そんな中では職員一人一人が助け合う組織が大事であることをつくづく感じさせられました。

また、そんな非常時の中でたくさんの方々に助けいただきました。そして、患者様、地域の皆様方などから心温まる励ましのメールやお手紙、お花などをいただきまして、本当にありがとうございました。こうした皆様のお心遣いが大きな励みとなり、皆様のおかげで診療を再開することができ、こうして新年を迎えることができました。職員一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

このような中で、看護職の役割が重要であり、まさに患者様、ご家族の思いに寄り添った安全・安心な看護の提供が求められています。また、ナイチンゲール生誕200周年の年でもあり、改めてナイチンゲール誓詞を読みました。その中には「われはわが力の限りわが任務(つとめ)の標準(しるし)を高くせんことを努(つと)むべし。」とあります。まさに今、看護職が力を合わせ、自分たちの使命を全力で果たしていかなければならない時であると考えます。当院は、平成25年に5月に開設し、「その人の看護」「切れ目のない看護」を掲げ、一生懸命がんばってきました。今年、9年目を迎えます。今後も、このコロナ禍の現状を受け入れ、感染対策の基本を徹底し、使命感を抱き、患者様、ご家族に安全・安心な看護を実践していきたいと考えます。まだまだ、未熟な組織ではありますが、今後も全力で地域の皆様をお守りしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

会津地域は、赤べこ発祥の地であり、由来は、諸説ありますが、平安時代に赤い牛が蔓延した疫病を払ったという伝説があります。今年は丑年ということもあり、この伝説を信じて、毎日、この赤べこにコロナウイルス感染症が落ち着き皆様方の平穏な日常生活が送れますよう、そして皆様方にとって健康で幸多き年でありますようお願いしてまいります。

◆会津の疫病退治の赤べこ伝説 [新型コロナウイルスをやっつけろ!!]

赤べこの由来

赤べこの体に描かれた黒い斑点は疫病の跡といわれ、その昔、赤べこを近くに置くと「流行り病」に感染しなかったという伝説が残っています。(※由来や伝説は諸説あります)

会津若松市のホームページより <https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2020042400048/>



会津のキャラクター 『あかべこ』

当院では新型コロナウイルス感染症に対して、赤べこパワーで職員一丸となり全力で戦っています。

会津医療センターニュースレター第26号は、新型コロナウイルス感染症対策としてペーパーによる配布は行わず、ホームページのみといたします。